

## 胃癌のマクロ診断

(マクロ所見からみた胃癌の粘膜内進展範囲の診断を中心に)

大阪医科大学 第一病理学教室

江頭由太郎

胃癌の病理診断はミクロ診断(組織診断)が主体で、マクロ診断(肉眼診断)は軽視される傾向にある。しかし、胃癌の診断・治療に携わる臨床家の多くは、マクロ所見を加味した、あるいはマクロ所見と対比した組織所見の報告を望んでいる。また、胃癌切除材料の標本作製の際、より少ない切り出し本数で、必要十分な胃癌の病理学的所見を得るためには、正確なマクロ診断に基づく切り出しが要求されるのは当然のことである。

今回は胃癌のマクロ診断について、胃癌の粘膜内進展範囲の診断を中心に述べる。

胃癌の組織型は腺管形成を有する分化型癌と腺管形成のない未分化型癌に大別される。両者は異なった生物学的特性を示し、マクロ像も異なっている。

表1. 分化型癌と未分化型癌の生物学的特性・マクロ像の差異

	分化型癌	未分化型癌
増殖様式	膨張性発育	びまん性浸潤
周囲組織への影響	圧排性増殖	破壊性増殖
増殖スピード	緩徐	急速
粘膜内癌の肉眼形態	隆起形成 (Ⅱa型, I型が主体だが、Ⅱc型も存在する。)	陥凹形成 (大多数はⅡc型で、隆起型癌を呈することは極めてまれ。)

胃癌の粘膜内進展範囲を推定するのに必要なマクロ所見は「周囲粘膜との高低差」と「表面性状」である。

## I. 周囲粘膜との高低差

### a) 隆起型癌(Ⅱa)の場合

周囲粘膜より癌粘膜が明らかに高い場合は、癌の粘膜内進展範囲を推定するのは比較的容易である。Ⅱaの境界が不明瞭になる原因として、絶対的原因としてはⅡaの丈が低い場合で、相対的な原因としては腸上皮化生や腺窩上皮の過形成により、癌周囲非腫瘍性粘膜が隆起し癌の高さが目立たなくなる場合である。隆起型癌は大部分が分化型癌であるから、その背景粘膜の多くは慢性胃炎を伴っており、相対的な原因によりⅡaの境界が不明瞭なことは少なくない。

b) 陥凹型癌(Ⅱc)の場合前記のごとく、分化型癌、未分化型癌ともにⅡc型癌を呈することがあるが、そのⅡc陥凹の形態は分化型癌と未分化型癌で異なっている。

表2.分化型癌Ⅱcと未分化型癌Ⅱcの形態像の違い

	分化型癌	未分化型癌
陥凹面 深さ 表面性状 再生粘膜島	浅い アリア模様有り なし	深い びらん状 有り
陥凹辺縁 性状 形状	不明瞭、なだらか 鋸歯状、星芒状	明瞭、断崖状 平滑

Ⅱc型癌も周囲粘膜より癌粘膜が明らかに陥凹している場合は、癌の粘膜内進展範囲の推定比較的容易である。Ⅱcの境界が不明瞭になる絶対的原因としてはⅡcの深さが浅い場合で、分化型癌は浅い陥凹を呈しやすく、しばしば境界不明瞭となる。相対的な原因としては癌周囲粘膜が萎縮により菲薄化し、Ⅱc陥凹と周囲非腫瘍性粘膜との高低差が目立たなくなる場合である。

### c) Ⅱb(平坦な癌)の場合

Ⅱb型癌は周囲の非腫瘍性粘膜との高低差のない平坦な病変であり、その粘膜内進展範囲を推定するには、後述の表面性状の解析が必要である。ただし、Ⅱb型癌は幸いなことに、単一の肉眼型として発生することは稀で、Ⅱc型癌やⅡa型癌の周辺に連続してⅡb型癌が存在する、いわゆる「随伴Ⅱb」の形態で認められることが多い。したがって、癌の陥凹や隆起の更に外側に「随伴Ⅱb」が存在するか否かを判定することが、正確な癌の粘膜内進展範囲の推

定に重要である。「随伴Ⅱb」は未分化型のⅡc型癌にみられることが多く、背景粘膜は中間帯から萎縮粘膜である頻度が高い。中間帯から萎縮粘膜に存在する未分化型のⅡcをみつけた際は、随伴Ⅱbの存在に注意して、癌の粘膜内進展範囲を推定しなければならない。

## II. 表面性状 a) 粘膜模様(胃小区模様)

胃粘膜表面に肉眼的に確認できる、生理的な格子模様(亀甲模様)を胃小区(アレア)と呼ぶ。癌の粘膜内進展に伴い、胃小区模様は変化するが、癌の組織型の違いにより、胃小区模様の変化のパターンに差が認められる。

表 3. 胃 癌 の 組 織 型 と 胃 小 区 模 様 の 変 化

組織型	胃小区模様の変化
分化型癌(高分化)	不整、粗大化
分化型癌(中分化)	不整、 微細化～不明瞭化
未分化型癌	不明瞭化、消失

### b) 色調

胃癌の組織型とその色調を表4に示す。胃型(胃腺窩上皮型)の分化型癌は、非腫瘍性胃腺窩上皮を模倣した癌で、異型度の低い癌が多く、生検診断の難しい例が少なくない。マクロ診断においても、周囲非腫瘍性粘膜と良く似た色調や表面性状を示し、境界が不明瞭であることがしばしば経験される。

表 4 . 胃 癌 の 組 織 型 と 色 調

組織型	色調
分化型癌(腸型)	発赤調
分化型癌(胃型)	正色調～褪色调
未分化型癌	褪色调

### c) 光沢感

非腫瘍性粘膜は腺組織の均一な増殖のため、一般に表面に光沢感を有している。癌の進展している粘膜は、癌組織の不整・不均一な増殖のため、表面構造に不整が生じ、光沢感が失われる。